

第3回 APNG Camp 報告書

佐藤有希(一橋大学社会学部)

今回が初めての APNG Camp への参加でしたが、主に台湾・韓国の若者と直接交流をして、インターネットの様々な活用例を知れたことは、大変有意義な体験でした。

一日目の Cyber Sex, On-line Game についてのスピーチセッションでは、インターネットという場において、アイデンティティがどのように変化するのかというテーマで、大変興味深いものでした。特にインターネットばかり使っているとネガティブな影響を受けるという考え方が一般的ですが、今回のセッションではポジティブな影響についても言及されました。また、Special Event では Co-chair をやらせていただきました。

二日目は Internet Governance, Asia Youth Culture, Feminist Network のセッションに参加しました。二日目の Internet Governance ではインターネット運用についての知識を深められました。Asia Youth Culture や Feminist Network のセッションは参加者の問題意識や関心が重なることが多かったため、比較的小さなセッションではありましたが、ディスカッションはかなり盛り上がったと思います。

この他、各セッションの間や会議後にも他の国の若者とインターネットに関する話題はもちろん政治や文化に関しても話ができて、改めて東アジアの国の共通性、問題意識の共有の可能性を感じました。

また、会議への参加を通して課題や問題点、改善できる点がいくつか見えました。

- 問題意識の共有の必要性

各セッションのテーマは多岐に渡っており、そのため各参加者の関心度もまちまちである。一つのケーススタディもそれが他のケースにどのように活用できるかなどを強調して、できるだけ多くの人が問題意識を共有できるようにすべきではないか。

- 事前準備の必要性

ほとんどのセッションについて事前に得られる情報はそのタイトルだけであつたので、セッションの具体的な内容は当日にならないと分からなかった。各セッションについての具体的な内容を事前に公開して、各参加者が予備知識を蓄えたり、問題点の確認をする時間があつたら、さらに当日の Q&A が盛り上げるのではないだろうか。

- 運用系とエンドユーザー系の交流

やはりインターネット運用に関心のあるグループとインターネットエンドユーザーグループがそれぞれ固まりがちであり、相互の交流が必要であると感じた。

その他にも様々な課題が見えたキャンプでしたが、それらの課題を今後の Camp の発展へと結びつけるべく、次回の Camp の運営にも積極的に関わっていきたいと思います。